

東海テレビ 林 泰敬社長 インタビュー



「明るく、前向きに。ポジティブカンパニーで難局乗り切る」 コンプライアンスを最優先、ハラスメントは組織的に防止

東海テレビ放送株式会社(名古屋市東区東桜1)の社長に林泰敬氏が就任した。インターネットの動画配信などに地上波テレビが大きな影響を受ける中、キー局の“フジテレビ問題”が発生、東海地方の伝統ある有力テレビ局も思わぬ逆風に晒された。しかし、林社長は難局にある今だからこそ、「明るく、前向きなポジティブカンパニーを目指していきたい」と話す。大きな変革期を乗り切る好機と捉えて荒波の海に船出する“林丸”のかじ取りについて抱負とコーポレートガバナンス(企業統治)強化への決意を聞いた。

―社長就任の所感をお聞かせください。

林泰敬社長 視聴デバイスが多様化し、ネットの動画配信サービスも非常に伸びている中で、地上波テレビは大きな変革期を迎えています。また、フジテレビ問題(タレントによる女性アナウンサーへの性加害を巡る一連の問題)に端を発し、年明けから大きな影響が出ており、視聴率的にも、営業売上のにも正直大きなマイナスが出ています。このタイミングでの社長就任となり、ある意味プレッシャーというか大きな責任を感じておりますし、重責に身の引き締まる思いです。私自身は覚悟を持って様々な課題に取り組んでいきたいと考えています。

―社員の皆さんに伝えたい新体制の運営方針は。

林社長 社内外とのコミュニケーションをしっかりとって、明るく、前向きなポジティブカンパニーを目指したい、というのが私からのメッセージです。中日ドラゴンズの井上一樹監督が「ドラポジ」をスローガンにしている、親和性があると感じています。アナウンサーと話していたら、東海テレビは1チャンネルなので“ワンポジ”はどうかと言われてまして、キャッチフレーズとしていいかなと個人的には思っています。まだあまり浸透していませんが・・・(笑)。

―フジテレビ問題などにより経営環境は厳しいですか。

林社長 そうですね。4―6月の第一四半期は営業赤字でした。7月からタイム、スポットのうちスポットが前年並みに戻ってきていて